

鳥獣対策だより

アライグマやハクビシンは防げる？

柵を設置したがアライグマやハクビシンに入られてしまった。
このような経験はありませんか？
イノシシやニホンザル対策で設置した柵では
アライグマやハクビシンなどに対応できません。

今号では

- ・なぜ入られてしまうのか？
- ・どうやって対策するのか？

について紹介します。



なぜ入られてしまうのか？

イノシシ対策のために使われている電気柵の通電線間隔は20cmです。また、複合柵に使用されるワイヤーメッシュ柵の目合いは、狭いものでも10cm程度です。アライグマやハクビシンはこれらの柵を簡単にくぐり抜けてしまいます。



イノシシ用の通電線の間隔が広い
電気柵をくぐり抜けるハクビシン



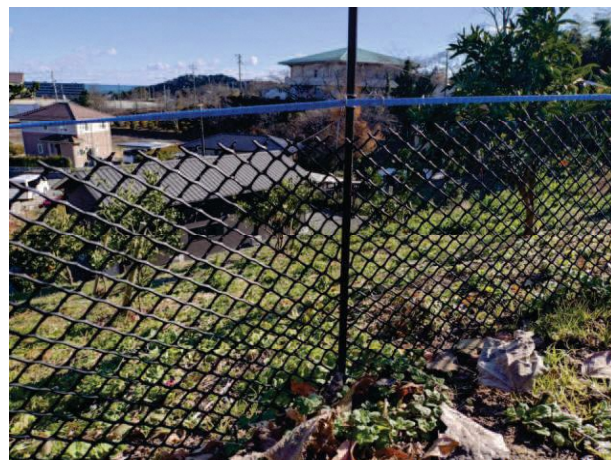
目合いが広いワイヤーメッシュ柵を
くぐり抜けるアライグマ

このような時はアライグマやハクビシンなどあわせた対策をする
必要があります。

どうやって対策するのか？

アライグマやハクビシンの対策には**ネット柵と電気柵を組み合わせた複合柵**が適しています。

アライグマやハクビシンなどを防ぐことに特化した柵の一例として「**楽落くん**」を紹介します。
この柵は、ネット柵と電気柵を組み合わせた柵で、アライグマやハクビシンなどの侵入を防ぎます。
下部にネットを使うことで、電気柵単体と比べて、漏電が起きづらく、**下草管理の労力を軽減**できます。



楽落くんを設置した様子

既設の複合柵がすでにある場合は、ワイヤーメッシュ柵の部分に**目の細かいネットを追加**することで侵入を防止することができます。
注意点として、アライグマやハクビシンに噛み破られないよう頑丈なネットを選ぶ必要があります。



ワイヤーメッシュ柵にネットを追加

対策は獣種に合わせた手法が重要！

イノシシの生態や対策、その他の鳥獣対策については過去の「**鳥獣対策だより**」をご覧ください。
スマホやタブレットで右のQRコードを読み込むか
“福島県 鳥獣対策だより”で検索！



福島県では、避難地域鳥獣対策支援員を避難地域12市町村に配置しています。地域住民と共に鳥獣害対策に取り組み、コミュニティの再構築を図ることを目的としています。



対策のご相談、情報提供はお住まいの市町村役場の担当課へ！